

メロウ・ソサエティ事業報告

1 「シニアネット・フォーラム21」のご紹介

新サービス産業創造グループ 部長 村岡義弘

1. シニアネットの普及が急務

わが国は、少子化と相まって高齢化が進み、既に5人に1人が65歳以上の高齢者となっています。昨年（2005年）からは総人口が減少に転じ、2030年頃には3人に1人が65歳以上という世界でも例をみない高齢社会を迎えることが予測されています。

旧通商産業省が提唱した「メロウ・ソサエティ構想」は、実り豊かで活力ある高齢社会の創出をめざして、情報システム等を活用して高齢者の社会参加を積極的に促すことを目的とした構想です。当協会では、メロウ・ソサエティ構想を受けて、構想実現のため経済産業省と協力し、様々な活動を展開してきました。

こうした背景では「活老なくして繁栄なし」と言われており、高齢者の社会での重要性はますます高まり、高齢者のもつ豊富な経験や知識、ノウハウ等が社会に還元され、社会や産業の発展のために生かされることが極めて重要なことと思われます。

当協会では、全国諸地域で活躍しているシニアネット（図1）こそが、「高齢者参加型情報化社会」構築を目指す原動力になるとの認識から、各地のシニアネットを「強力なパートナー」として、密接な連携をとって事業を展開してきました。

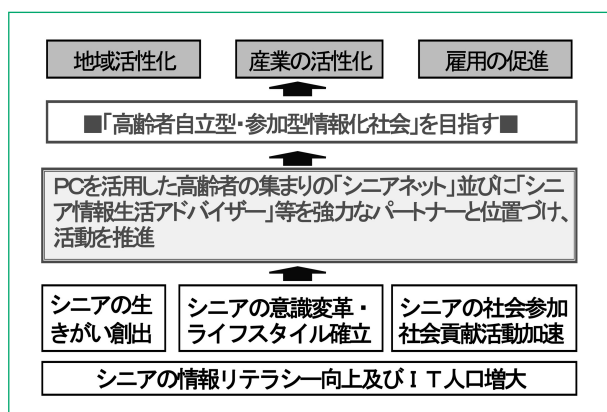


図1 メロウ・ソサエティ構想（第2期）

シニアネットとは、シニアが集い、シニア自身のIT化促進や、ITを駆使した地域貢献活動など、得意のITを活用して様々な活動を展開している団体です。当協会が、数年前に全国のシニアネットにアンケート調査を行った結果（図2）、その設立理由として、①仲間づくり、②IT学習・普及、③生きがいづくり、④社会への貢献等々が上位を占めていました。自らのシニアライフを充実したものにしたい、そして何らかの形で社会に貢献したいとするシニアの方々の集まりと行うことができます。

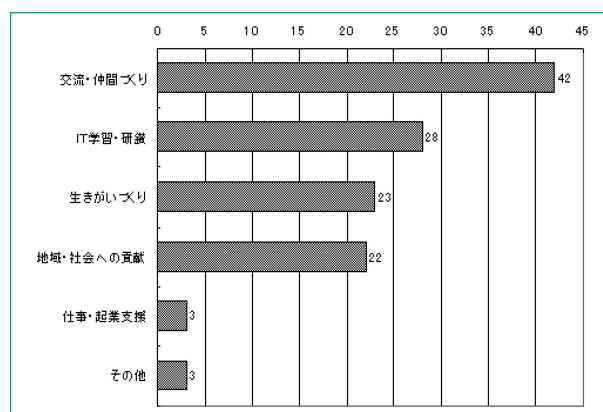


図2 シニアネット設立理由

全国各地にあるシニアネットは、それぞれの地域に根差した草の根的な活躍を展開しています。シニアネットが全国津々浦々に普及し、意欲的な活動を展開することが、活力ある高齢社会創出に必要なと考えています。

実り豊かなシニアライフを送るためには「シニアこそITを身につけるべき」と言われています。電子自治体やe-Japan計画など、わが国は高度情報化社会に入っていますが、人口面でメジャーとなるシニアへのIT普及が大きなポイントになるからです。現在シニアのIT人口は総人口の2割程度と言われますが、言い換えればまだ2千万人ほどのシニアがITとは無縁ということになるかと思えます。

(4) プログラム構成

毎回狙いを明確にし、それを表すキャッチフレーズを決め、それに即したプログラムの設定を行っております。プログラムの構成は、概ね「基調講演」、「パネルディスカッション」、「ワークショップ」を基本としていますが、参加者の要望等を加味して、最近はそれに「シニアネット交流広場」、「特別セミナー」等のオプションも付け加えています。

これまでのキャッチフレーズとして、「21世紀にはばたけ シニアネットパワーアップ宣言」、「広げよう 地域に活力 シニアネット」等があります。

また、日程も2日間を標準とし、1日目は「基調講演」と「パネルディスカッション」といった全体的な議論を、翌2日目は「ワークショップ」を原則分科会形式で個別的な議論を行うことにしています。特に「パネルディスカッション」や「ワークショップ」は参加者の「もっと時間が欲しい」との要望が強く、限られた時間内で出来る限り効果的に行うようにしています。毎回、定員を上回る参加者が、熱の籠もった議論や深い交流を展開しており、有意義なものとする事ができていると思います（表2）。

第1日目	
10:00~10:30	開会・オープニング
10:30~12:00	基調講演Ⅰ
13:00~14:00	基調講演Ⅱ
14:00~17:00	パネルディスカッション (懇親会)
第2日目	
09:30~12:00	ワークショップ
13:00~14:00	
14:00~15:00	シニアネット交流広場
15:00~16:00	ワークショップ発表
16:00~16:30	クロージング・閉会

表2 標準プログラム

次にプログラムの主な内容をご紹介します。

①基調講演

基本的には概ね2題で構成しています。

まず主題として1題は、シニアネットやNPO等のシニアの市民活動等に造詣の深い学識経験者や有識者等により、こうした活動がシニアにとって社会にとっていかに意義深かつ必要なものであるかを訴えるものとしています。そしてもう1題は、行政の首長等により、自治体がこれからの街づくり地域振興にシニアネット等がいかに期待

しているかとか、IT関連の専門家等によるITの進歩がいかにシニアライフに、シニアネットの活動に影響を与えるか等々、今後の活動に参考となるものを提供することにしております。これまで、徳島大学の吉田教授、広島大学の浦教授、三鷹市の清原市長やマイクロソフト社の古川執行役（当時）等にご講演をいただいています。

②パネルディスカッション

パネルディスカッションは、基調講演での問題提起を受けて、より深い具体的な議論を展開致します。基調講演者をコーディネーターとし、全国のシニアネットの代表者数名と自治体、企業の関係者各1名の計4、5名のパネリストで行っています。

シニアネットの活動は、優れた社会参加・社会貢献活動であり、自治体等との協働は大切です。実際に活動しているシニアネットの立場から、またそうしたシニアネットと協働し支援する自治体・企業等の立場から、実績に裏打ちされた有意義な議論が展開されています。

③ワークショップ

ワークショップは、2日目のプログラムの中心となるものです。シニアネットは、その設立の理念や目的等に即して、特徴ある様々な活動を展開しています。その中で、自治体等との協働を積極的に展開している団体が増えてきています。その活動を分類すると概ね次のように分けることが出来るかと思えます。

- ア. シニア向けIT講習等IT普及活動
- イ. コミュニティ・ビジネス活動
- ウ. 地域とのコミュニティ活動
- エ. 地域歴史資産・文化資産のデジタルアーカイブ等による継承・紹介
- オ. 国内外シニアネットとの交流活動 等々

こうした活動ごとに5つ程度の分科会に分かれてワークショップを行い、お互いが刺激し合う中で持ち寄った課題等について議論を深め、解決の糸口を探って、今後の活動の更なる発展につなげて頂くこととしています。なお、1分科会あたり2名（全国のシニアネット等から）の課題提供者を設け、これを軸に議論を進めています。

最後に、1つの分科会に参加することで他のテーマの分科会の状況がわらなくなるので、ワークショップ終了後に発表会を設け、各分科会の代表から討議内容報告と参加者を含めた質疑を行うことにしています。

参加者は希望する分科会を明示して参加申込みを行うようにしており、各自問題意識を持って来られるので、熱の籠もった議論が展開されています。

④シニアネット交流広場

全国のシニアネットが一堂に会する機会であり、シニアネットの日ごろの活動状況を出展という形で披露しあうことにしています。会場の一部を仕切って、概ね10団体ほどが展示を行い、参加者との間で相互交流を行っております。展示は、具体的な事例を見ることが出来ると好評を博しています。

(5)「シニアネット・フォーラム21in四国」の概要

ここでは、最近実施した「シニアネット・フォーラム21in四国」について、その概要をご紹介します。

「広げよう！ シニアに生きがい、社会に活力シニアネット」をキャッチフレーズに、未だシニアネットの少ない四国地方におけるシニアネットの立ち上げ、普及・拡大を狙って、その内容もシニアネットをわかりやすく紹介する啓蒙的なフォーラムと致しました。盛りだくさんなフォーラムになりましたが、2日間に亘り、定員を上回る参加者が熱の籠もった議論や深い交流を展開され、有意義なものとすることができました。アンケート調査でも、「シニアネットの素晴らしさを肌で感じることができ、是非四国で立ち上げたい」といった意欲的な姿勢が多く見られました。今後の動きに期待したいと思います。

以下に本フォーラムの概要を紹介します。

①開催の目的：

プログラムは特に四国地区におけるシニアネットの普及・拡大といった目的を達成するべく、啓蒙的なものと致しました。

②開催日：

平成17年12月1日(木) 10時～18時
2日(金) 9時半～17時

③開催場所：

松山市男女共同参画推進センター (COMS)

④共催：

愛媛県

⑤後援：

経済産業省、松山市

⑥参加者：

延べ400名強と定員を上回る参加者を得て盛況でした。シニアネットの会員、これからシニアネットに関わりたいとするシニア、自治体の情報政策やNPO推進関係部門等々多方面から参集頂きました。

⑦主なプログラムの概要：

プログラムの概要を表3に示します。

第1日目(12月1日)	
10:00～10:30	開会・オープニングセッション
10:30～12:00	基調講演Ⅰ
13:00～14:00	基調講演Ⅱ
14:00～15:50	パネルディスカッション
15:50～17:45	パネルディスカッション
第2日目(12月2日)	
09:30～12:00	ワークショップ
13:00～14:40	ケーススタディ
15:00～16:30	ケーススタディ
16:30～17:00	クロージングセッション・閉会
第1日・第2日	シニアネット交流広場

表3 プログラムの概要(四国での事例)

■第1日目(12月1日)

開会にあたり、ご来賓の塚本芳昭四国経済産業局長、夏井幹夫愛媛県情報企画部長、中村時広松山市長よりご挨拶を頂きました。

Ⅰ. 基調講演Ⅰ

「シニアネットの役割～シニアライフの楽しみと社会参加～」

吉田 敦也(徳島大学教授)

アメリカで発祥したシニアネットの創設の背景や歴史的経緯から、地域社会とシニアネットの関わり、豊富な事例を交えた現状分析、そのあるべき姿と果たすべき役割、そしてシニアネットの今後の普及・発展のために何をなすべきかをご講演いただきました。

この示唆に富んだ貴重な講演の骨子は、本研究成果レポートの次項に掲載致しました。

Ⅱ. 基調講演Ⅱ

「ITの未来がシニアの未来を切り開く」

栗田 和夫((株)ジャストシステム松山研究所長)

今やITがシニアの生活に深く関わってきている中、シニア一人一人がITを活用して「人と繋がり」、「地域や社会や世界と繋がる」ことでシニア自らの生活を「楽しく」豊かにすることが出来ます。そこで、「繋がる」、「楽しむ」をキーワードにパソコンのソフトウエア、インターネットの技術動向をデモを交えてわかり易く解説いただきました。

- ・「繋がる」…地図と連動した地域情報提供サービス、世界中に無料で電話できるスカイプ、ブログ等々
- ・「楽しむ」…音楽配信・ビデオ配信の新しい仕組み音声認識・音声入力ソフトが開く新しい世界等々

Ⅲ. 特別講演

「街づくり・地域振興におけるシニアネットへの期待」

俊野 健治（愛媛県企画情報部情報政策課長）

竹村 奉文（松山市産業経済部地域経済課長）

愛媛県はITリーダー養成に関し、県とNPOが役割分担しながら推進しています。行政だけではきめ細かな対応が難しいと考え、NPOと協働で「えひめ地域ITリーダー養成支援事業」を平成16年度から3カ年計画で取り組んできたもので、NPOの活躍で成果が出てきております。

松山市は「ITを活用した産業興し」を掲げ、愛媛らしい街づくりを自らの力で進める中、シニアの持てるノウハウの継承と地域貢献に期待をしています。市長は市民の力を「市民力」と言っていますが、市はその市民力を借りて市民の求める街づくりを行っており、それにはシニアがその持てる豊富な知恵やノウハウを大いに出して、街づくりに関わって頂くことが重要と考えています。

Ⅳ. パネルディスカッション

「充実したシニアライフと社会参加～シニアネットとは～」

コーディネーター：吉田 敦也（徳島大学教授）

パネリスト：塩見 信雄（NPO法人シニアネットひろしま理事長）

砂川 正男（NPO法人沖縄ハイサイネット会長）

中川 幹朗（NPO法人おおさかシニアネットチーフディレクター）

堀池喜一郎（NPO法人シニアSOHO普及サロン三鷹顧問）

（五十音順）

全国で先進的な活動しているシニアネットの代表者から、これからシニアネットを設立したい、参加したい、あるいはもっと詳しく知りたいと高い意欲を持たれるシニアに具体的な指針を示していただきました（写真1）。

1. シニアネット設立の思い、きっかけ、その活動は設立の目的やきっかけとして、「パソコンを使って『常に楽しく』充実した人生を送りたい」、「シニアが好きなことをすることで世の中が元気になるのでは」、「県主催のパソコンボランティアには高齢者向けのものがなかった（当時）ため」とシニアライフを楽しく過ごす中で社会を支えたいという思いでシニアネットを立ち上げたことが強く感じられます。

その活動も「シニア向けパソコン講習やセミナーの実施」、「地域・国内外諸団体との交流活動」、「生きがい情報ネットワークの配信活動」、「講習会と訪問サポートを中心としたコミュニテ

ィビジネス」等、設立の思いを具現化するものとなっております。

2. 活動をしてみて

「情報発信すると周りの人がどんどん応えてくれる。そのことに喜びを感じる」、「交流を通して視野が広がり目標を持って勉強することが楽しくなる」、「シニアネット設立等を促す中で、中国地方5県のシニアネットががっちり組めた」、「インターネットを活用して生きがい情報を作っているが、ある医療問題で署名運動をネット上で展開したところ会員の3倍を超す1万人もの署名が集まった」、「ビジネスは絶対やらないという人たちの趣味活動が実はビジネスに繋がったりしている。遊びでもきっちりしたものをやっておけば、人の繋がりが出来てビジネスチャンスを作り出した」など、活動してみると想定外の出来事や大きな感動があり大変面白いものであることがわかりました。

3. 今後の課題、まとめ

会場が一体となって熱い議論と活発な質疑応答がなされ「シニアネットは自分で責任を持って活動することが原則である。運営に当たっては全国のシニアネットと手を繋いだりNPO法人格を取得するなど利点を生かして活動していくことが本筋である」、「人が集まりやすい状態にして、なおかつ法的に決められた定款というルールの上で動くことは、市民的な活動を進めていく上で最適である」など、有益な指針が示されました。



写真1 パネルディスカッション

Ⅴ. ワークショップ

1. 「コミュニティ・ビジネスを創出する」

課題提供者：堀池喜一郎（NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹顧問）

行政との協働には「アウトソース型」と「パートナーシップ型」とがあります。「パートナーシップ型」は行政が一度も行ったことがない事業を、企画は行政が実施は市民が行う形で、新しい仕事を作り出され雇用創出や産業振興に繋がっています。私たちは「パートナーシップ型」で行政と協

働し、新しいビジネスを作り出しています。

事業運営は、ある会員が一つの事業を行いたい場合、これに賛同する会員を「この指止まれ！」方式で集めて推進する「ワーキング」と行政から委託された事業を多数の会員で推進する「プロジェクト」の二つの仕掛けで行っています。「ワーキング」は、活動の成果・議事録・企画等をメーリングリスト（ML）で公開することが義務づけられ、その活動が理事会で承認されると、シニアSOHOの名前を使って進めることが出来るようになっていきます。

事業運営を通して、①よい人を多数集める、②顔の見えるITで学び合う、③事業を作り運営する形態を作る、④専門性を高め品質を保证する仕掛けを作り、運営ノウハウを積み重ねてきました。

今後の課題は、多面的な専門性の高い引き合い案件を受けた場合に、これをコーディネートできる会員をどう増やすかにあります。

2. 「自治体との協働で地域の情報化推進」

課題提供者：塩見 信雄（NPO法人シニアネット
ひろしま理事長）

NPO法人として「高齢者の社会参加や生きがいづくりを指向し、かつIT世界へ導く」ことを目的としており、行政との協働は極めて重要と考えています。

原爆の日の「インターネット灯籠流し」、シニア向けパソコン講習、中学生が保護者にパソコンを教える世代間交流等々、行政との協働事業を行っています。特にシニア向けパソコン講習では受講者が1万5千人にのぼっています。

高齢者の社会参加、生涯学習、世代間交流、IT講習等活動によって行政の担当部門が多岐に渡るため、担当者とのコンタクトが大切で、きちんと身を処すとともに、担当者と親しく話が出来るよう社会的な常識、世の中・政治の動きなどに常日頃気を配るように努めてきています。また、自ら地域社会に溶け込む努力をすることが必要で、現役の時にシニアライフアドバイザーの資格を取得しました。こうした日常的な行動が、強力なエネルギーとなって行政との一体感が育まれていくものと思っています。

3. 「交流活動を通じて社会貢献」

課題提供者：砂川 正男（NPO法人沖縄ハイサイネット会長）

沖縄ハイサイネットの理念は、「人のため、世のために尽くすシニアたれ・地域に貢献せよ」、「常楽しく」あれ等です。

会には二大活動方針があり、一つは「パソコン講習会開催」であり、一つは「国内外の交流活動」

です。その精神は「身近な人たちを大切に」にあります。face to face、heart to heartを基本に、かかる精神で接することが地域（沖縄市等）商店街や国内外のシニアネット等との交流活発化や地域貢献に繋がってきております。

これまで国内では仙台シニアネットクラブほか数団体、海外では台北、ソウル、ハワイのシニアグループ等との交流を行い、成果を上げてきています。来年度は上海での交流を計画しています。

交流活動を成功させるためには、事前の綿密な準備とお互いの情報交換が大切です。誠意と熱意、謝意を持って積極的に行動することが信頼と共感を呼び、成功に結び付くものと確信しています。

4. 「企業との協働で社会参加」

課題提供者：大谷 明弘（いちえ会会員）

いちえ会は敢えて組織を作らず、会員であるシニアの自主性と知恵で運営されており、会員それぞれが自らを高めていけるようなコミュニティを目指しております。こうしたユニークな活動が逆に企業に注目され、企業との協働が生まれたと言えるかと思います。

企業との協働には社会貢献と本業の二つのタイプがあります。社会貢献関係では、住友生命、IBM、マイクロソフト等の社会貢献事業でIT講習を開催したり、本業ではジャストシステム、インプレス、ニフティ等とマニュアル作り等で協働しております。

企業と協働するためのポイントとして、①実力をつける、②企業との接点にもなる自団体のホームページを充実させる、③活動実績等を文書化しておく等々があげられると思います。

いちえ会は、企業との協働を会員の向上に繋がればいいと、あくまでも窓口としての立場を保ってきております。

5. 「地域の魅力を高めて地域に貢献」

課題提供者：野明 宏亘（NPO法人知的協調参画型
地域振興協会専務理事）

鎌倉に拠点を置く当会は、鎌倉市民を中心に産官学民からなる会員で構成され、様々な経験やノウハウを知的協調的に結集し、地域に貢献しているというものです。その活動の一つにデジタルアーカイブによる鎌倉観光資産情報の蓄積と活用があります。行政・企業との協働で行っている「鎌倉観光散策ナビ」は名所ごとに蓄えた情報を携帯の高精度測位端末を使って活用することにより、鎌倉の魅力を更に高めて地域振興、経済活性化に繋げようとするものです。コンテンツづくりにはシニアネットならではの豊富な知見が生かされております。またデジタルアーカイブにより永福寺

や鶴岡八幡宮大回廊など過去に失われた資産の再現にも注力しております。

こうした活動を通じて、自らも楽しみながら地域の資産を次世代に繋げていくことにしております。

Ⅵ. ケーススタディ「四国のシニアネットの活動」

「シルバー高知」及び「NPO法人NPOパソコン活動支援びんぐ」の活動について、それぞれ門田喜作シルバー高知代表と山本侃男NPO法人NPOパソコン活動支援びんぐ理事より、活動状況について発表がありました。それぞれ、シニア向けのIT講習等地域に根ざした素晴らしい活動が披露されました。

Ⅶ. シニアネット交流広場

全国のシニアネット11団体の活動成果の展示と協力企業3社による「お役立ちコーナー」を囲み、シニアネット同士の具体的な事例を通しての深い交流がなされ、今後の発展が期待されます（写真3）。

3. 今後の展開

- ①「シニアネット・フォーラム21」はシニアネットに焦点を当てた国内唯一のものであり、少子高齢社会にあって、ますますその活動が重要となるシニアネットの普及・拡大を目指し、内容のより一層の充実を図って行きます。
- シニアネットの祭典として定着させるとともに、

シニアネットの活動の素晴らしさを世の中に発信し続け、更なる普及・拡大に寄与していきたいと考えております。

- ②2007年には団塊の世代が定年を迎えはじめ、多くのシニアが地域に戻ってきます。こうした方々がシニアネットに参加することで、シニアがそして地域が大いに元気になることが期待されます。この「シニアネット・フォーラム21」が団塊の世代とシニアネットを結ぶ架け橋となることが肝要かと思えます。
- ③シニアネットの普及を加速するために、日常的に全国的に連携する組織が必要と思っております。当協会では「日本のシニアネット」なるホームページを用意し全国にその存在を知らしめる努力をしてきありますが、相互の連携を強め、活動の更なる向上を図り、またこれからシニアネットを立ち上げようとする方々への相談にのれる連絡会のような場が必要な時期にきているように思います。
- ④シニアのIT普及や情報リテラシー向上には、シニアネットの存在が役に立ちます。シニア情報生活アドバイザーと組んでのきめ細かなIT講習は楽しい雰囲気の中行われ、極めて効果的であり、大きな実績をあげてきております。電子自治体、e-JAPAN計画等の進展にはシニアの情報化拡大は極めて重要なポイントです。シニアネットの普及及びシニア情報生活アドバイザーの普及に当協会と致しましては、より一層努めて参りたいと思えます。



写真2 シニアネットフォーラムin四国



写真3 シニアネット交流広場風景